

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700492		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム マイハウスしんせい(ユニット しんせい)		
所在地	岐阜県本巣市十四条字高田557番地の2		
自己評価作成日	令和 3年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和 4年 6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2170700492-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 3年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「できる喜び 自分でできる 楽しく明るい生活」をホームの基本概念として支援しています。食事のお手伝いをしたり、洗濯物を取り込んだり、TV体操をしたり、利用者様一人ひとりが、自分でできることを役割として生活しております。

元氣な利用者様が多く、年数回のバス旅行は利用者様にとって、大きな楽しみとなっています。食欲も旺盛で、旅行先での食事は殆ど完食状態です

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍によって、ホームの大きな特徴である外出支援が思うに任せない状態となっている。散歩や外食も制限付きで行い、利用者の大きな楽しみであるバス旅行も中断している。法人理念である「できる喜び 自分でできる 楽しく明るい生活」を実践するために、外部との接触を制限してホーム内での支援の充実を目指している。

「食」へは法人を挙げての拘りがあり、食材の調達は法人が3ホーム分を一括発注している。その新鮮な食材を使い、職員による3食手作りの食事は品数が揃い、味付けも絶妙である。食事の準備や後片付けには、先を争って手伝う利用者の姿が見られる。

新たな利用者をはじめ元氣な利用者が多く、ホーム内には活気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム自体の目標もケア会議ミーティング時に職員間で話し合い取り組んでいる【緊急事態宣言中に於いてはミーティングの開催は中止】	ミーティングでも、理念に基づいたことが話題となり、支援で迷ったときには「理念に戻る」こととしている。依頼心が強く、安易に職員の手助けを求める利用者には、自立を促す取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。近隣の方々がホームに立ち寄られ、収穫した野菜など差し入れて下さる。運営推進委員会【令和2年に於いては開催が出来なかった】にて、地域参加出来る行事を模索している	運営推進会議への地域参加がないことから、地域住民の参加できるホーム行事を企画していた。しかし、コロナ禍によって、立ち消えとなっている。近隣の農家から採れたての野菜が届く。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に於いて、認知症の理解と啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所から報告と参加者から質問・意見・要望等を受け、話し合っている	コロナ禍によって、運営推進会議が開催されていない。	対面開催が困難な場合には、市の意向に沿い、書面による運営推進会議の開催が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の報告をしている	市との交渉は法人代表が、各種申請や報告は管理者がと、それぞれに役割を分担して対応している。生活保護受給者の利用があり、市・福祉敬愛課とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室・居間・玄関の鍵など施錠しないで、自由に入出りできるようになっている、また職員会議の場に於いて、話し合い拘束しない介護を確認・実施している【現在は予防対策のため門扉を施錠してある】	これまでは玄関に施錠はなかったが、現在では鍵が掛けられている。外部からの人の立ち入りを最小限に留め、新型コロナウイルスへの感染を防止するための措置である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体に痣などあった場合、ヒヤリ・ハットに記入し原因を職員全体で話し合う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の受給者がいることから、職員には関連知識の必要性が生じている。しかし、実務は代表一人に任せている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書の内容説明を行っている(代表責任者が行っている)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時及びケアプラン説明時【令和2年4月以降直接会って説明は出来なかった】に意見要望を聞いており、また職員は利用者の様子を随時伝えている	緊急事態宣言の発令中は家族面会を禁止していたが、宣言や蔓延防止の重点措置が解除されれば、居室や事務所で面会は可能である。宣言発令中は、家族が中庭から、利用者はベランダから、声を掛け合っていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ミーティングを行い、意見を聞くようにしている。日頃からもコミュニケーションを図るよう心掛け、問いかけたり・聞いたりしている	同法人の3ホーム合同のケアマネ会議で法人代表の方針が伝えられ、各ホームの管理者が職員に周知を図っている。毎月のミーティングだけでなく、管理者は日々の支援の中でも職員意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ている、個別に職員の悩みなども相談にのっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習等の資料を配付し出席できる職員は出席しているが、職員不足のため公務の中では中々参加できなくなっている・個人での参加はある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各ホーム間では、意見の交換機会があるが、同業他社との交流は少ない。代表者や職員個人のネットワークはある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、必ず本人・家族に会って心身の状態・思いに向き合い職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネ・家族に今までの経緯・状態をゆっくり聞き取る		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には、可能な限り柔軟な対応を行い、状況によって他の事業所のサービスに繋げるなど対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者という意識をもたず、お互い共同しながら和やかな生活が出来るよう場面作り・声掛けをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告・相談すると共に来訪時には、御本人と家族とで居室にて過ごして頂く【新型コロナウイルスの影響で令和2年3月以降は施設内の立ち入りを制限している】		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人などホームに来ていただいたとき、居室にて談笑して頂いている【新型コロナウイルスの影響で令和2年3月以降は施設内の立ち入りを制限している】	多くの利用者が馴染みの美容院を持っている。コロナ禍によって制約はあるが、家族が来訪してホーム内で調髪したり、馴染みの美容院に連れて行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶・食事等の時間、職員も一緒に会話したり、みんなでレクレーションを行ったりして、利用者同士の関係が上手くいくように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に帰られた方の家、施設に行かれた方など面会に行ったりしている 退所した家族の相談にも応じる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛け、言葉・表情・手振り・身振りなどで真意を察し、推測したりしている	利用者の半数以上が、自ら意向を表出できる。意思疎通が困難な利用者は、様子やしぐさ、表情の変化等から意向を把握している。テレビを観ている利用者の反応で、食べたいものが分かることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人をはじめ家族の方々の力を借りながら継続的に行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことよりも、出来ることを行ってもらい、その人全体の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しを3ヶ月で見直し、ミーティングの時に、利用者・家族の意向を介護職員と共に確認し、話し合い作成担当者が取りまとめ作成している	短期目標を3ヶ月とし、全職員が介護計画の支援内容を理解し、ルーティン化した内容については介護計画から消している。「美味しいものが食べたい」利用者は、「異食、夜間の注意」がプランに入っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に食事・排泄・服薬・バイタル等日々の暮らしの様子など記録し、職員全員が把握している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員配置上の関係で、職員の手が空いたとき極力対応することになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回地域の介護相談員の来訪があり、個々の会話・相談事に対応している【令和2年度に於いては介護相談員の来訪は無かった・・・新型コロナウイルスの影響で】		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの入院施設のある病院が協力病院であり、全体で月2回の訪問診察に来ていただき、異常発生時などに対応して頂いている	2つの医療機関を協力医とし、利用開始時に利用者、家族が選択している。月に2回の訪問診療があり、訪問看護ステーションとの医療連携の体制もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に直ぐ連絡出来るようになっている 月一回の訪問看護を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と早期退院の話し合い(病院のカンファレンスの参加)をし、家族とも常時連絡取り合える状態になっており又定期的に面会に行くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では、看取りをすることは考えておらず【現在検討中】、利用開始時から、終末期のケアについての方針を家族に伝えており、又出来る限りホームでの暮らしが継続出来るように、早期対応し寝たきりにならないように努めている	家族の強い希望があつて看取りを行ったことはあるが、利用開始時にホームでの看取りをしない方針を説明している。法人代表が医療機関や特養施設との強いパイプを持っており、重度化に伴って、家族と適切な移行先を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて緊急時の対応訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署(立会)・・・【令和2年度に於いては立合いは無かった】の協力を得て、消火器の使い方・避難訓練を年2回行っている	ハザードマップ上では災害警戒無指定地域であるが、年間2回の防災訓練は欠かさず実施している。避難訓練は実施するものの、災害時はホームに留まって救助を待つ方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、入所者の尊厳を重視した対応に心掛けている。利用者に親しみやすい声掛けや介助に努めながら、馴れ愛にならないように適切な対応をしている	利用者を尊重した支援を実践しているが、地域の言葉遣いがきつい特徴があり、時として命令調の口調になることがある。気づいたときは、法人代表が直接注意している。	言葉遣いに限らず、日々の支援が適切であるか否かを職員自らが振り返るために、自己チェックの仕組みづくりを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者に合わせた声掛け、意思表示が困難な方には、表情を読み取り、本人が決定できる場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事・外出などは職員の都合で決めているが、通常は一人一人の体調に配慮しながら、本人希望・相談しながら過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院・理髪店(付き添いは家族が対応していただくようにしている)に行き、好みの髪型にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者がある時は、芋の皮むきや片付けを一緒に行っている。献立内容が重複しないよう前日の献立を見ながら、温かいものは温かい内に、食事時間に合わせ直前に提供している	食への拘りがあり、法人主導で3ホームの食材を一括発注している。その新鮮な食材を使い、3食手作りの食事を提供している。元気な利用者は率先して食事の準備等を手伝い、仕事の取り合いになることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を生活記録に記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け・見守り又介助にて口腔ケアをしている 月2回歯科医の訪問がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、尿意・便意のない利用者にも時間を見計らって声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を促す 夜間に於いてはトイレへの誘導が危険な方などは、ポータブルの設置を行っている	排泄チェックを欠かさず行い、トイレでの排泄を基本として支援している。自立している利用者であっても、安全に配慮して、夜間のみ居室のポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を使用し、牛乳・乳製品・繊維質の多い食材を提供したり、散歩などの運動をするように心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに午後から一人づつ入浴を行い、自身のペースでゆっくり入浴している。…季節によっては、入浴剤などにより、ゆず湯・菖蒲湯など楽しんでいただいている	軽い入浴拒否のある利用者はいるが、週に3日の入浴を基本として支援している。気分転換を図るために入浴剤を使用したり、季節の湯(菖蒲湯、柚子湯等)を楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを毎日の記録により把握し、日中の活動に気を配り安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はホームにて管理し、職員全員が薬の内容を処方にて確認して服薬を行い、状態を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性入所者は食器拭き・野菜の皮むきなど、出来ることをお願いしている 全員で拭き掃除を行っている(椅子・ソファ・車椅子等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年数回福祉バスにて遠出したり、散歩・飲食店・公園など、出来る限り外部の環境にふれることが出来るようしている【令和2年度に於いては新型コロナウイルスの影響のため外出は出来なかった】	玄関の施錠だけでなく、入り口の門扉にも施錠があり、新型コロナウイルスの侵入を徹底的に防ぐ態勢をとっている。散歩や外食も制限を設け、利用者の大きな楽しみであるバス旅行も中断している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号を忘れられたりしているため、職員が番号を押し話される 家族の方・知人から電話があった場合取次、話せるように誘導する		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には全員が座る事が出来るソファー・壁にはカレンダー・写真・みんなで制作した季節の貼り絵など飾って居心地の良い雰囲気を作っている	コロナ感染防止の観点から、共用空間への立入りを自粛した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキに椅子を置き一人で過ごしたり、仲の良い入所者とくつろげるスペースがある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた布団・タンス・生活用品・写真など持ち込んで貰い、安心して生活できるように努めている 日中に於いては利用者は殆どリビングで過ごされている・・・リビングでの雰囲気にも注意を払っている	コロナ感染防止の観点から、居室の見学を自粛した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に注意しながら、出来る限り自身で行う(着衣・洗濯畳み・移動等) 新たな混乱や失敗が生じた時は、その都度職員が話し合い本人の不安・混乱を取り除き、自立支援に繋げている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700492		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム マイハウスしんせい(ユニット まくわ)		
所在地	岐阜県本巣市十四条字高田557番地の2		
自己評価作成日	令和 3年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和 4年 6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2170700492-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1
訪問調査日	令和 3年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「できる喜び 自分でできる 楽しく明るい生活」をホームの基本概念として支援しています。食事のお手伝いをしたり、洗濯物を干したり・畳んだり・リビングの掃除を行ったり、日課の体操に参加したりして、利用者一人ひとりが、自分で出来ることを役割として生活しております。元氣な利用者様が多く、年数回のバス旅行は利用者様にとって、大きな楽しみとなっています。食欲も旺盛で、旅行先での食事は殆ど完食状態です【今年度に於いては、新型コロナの影響のため外出が出来なかった・現在も継続中】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア会議・ミーティング時に職員間で話し合い、取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入、近隣の方々がホームに立ち寄り、収穫した野菜など差し入れて下さる。運営推進委員会にて地域参加できる行事を模索している【新型コロナのため今年度に於いて運営推進委員会の開催は出来なかった】		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症の理解と啓発に努めている【新型コロナのため今年度に於いて運営推進委員会の開催は出来なかった・又外部との接触も含む】		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の活動報告を行い、参加者の意見を聞いて話し合っている【新型コロナのため今年度に於いて運営推進委員会の開催は出来なかった】		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらって話し合っている【新型コロナのため今年度に於いて運営推進委員会の開催は出来なかった】		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	急に不穏になり、外に出ようとする利用者がおられる場合、ユニットの出入口を施錠しているも、安定している時は施錠を行っていない。職員会議の場に於いて、話し合い拘束しない介護を確認・実施している【新型コロナの影響で門扉を施錠している】		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体に痣などあった場合、ヒヤリハットに記入し原因を職員全体で話し合う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者がいることから職員には関連知識の必要性が生じているが、実務的な事柄は、代表者一人が行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、内容説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の時、面会時等に意見・要望を聞いている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時(月一回)【新型コロナで緊急事態宣言の期間中はミーティング中止】や、随時意見や提案を出し合い相談・反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に相談にきている。 個別に職員の悩みなどにも相談にのっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会に出席できるよう、シフト作成時に配慮してはいるが、職員不足により公務による外部研修は出来ない事がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各ホーム間では意見の交換機会があるが、同業他社との交流は少ない、代表者や職員個人のネットワークはある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の思いや不安を受け入れるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者やケアマネが、家族に今までの状態をゆっくり聴き取っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人・家族の思いを確認し、支援・提案を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・おやつ時、一緒にテーブルに着き、食べたり・会話したりしている、また手伝いもしていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子を伝え、家族と話し相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時知り合いの方と合った時など、会話出来る時間をもうける、又は気軽に遊びに来て頂ける様な雰囲気を作るようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションを通して、皆で楽しんでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動された施設へ面会に行ったり、家族に電話し、その後の様子を聞いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話より、希望・意向を引き出している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人との会話から引き出している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前日の睡眠状態を把握、朝(おやつ後)と夕食後にバイタル測定して心身の状態を確認している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しを3ヶ月で見直し、ミーティングの時に、利用者・家族の意向を介護職員と共に確認し、話し合い作成担当者が取りまとめ作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時、全員が日報により、利用者の様子を把握している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回地域の介護相談員の来訪があり、個々の会話・相談事に対応している【今年度に於いては新型コロナウイルスの影響で介護相談員の受け入れは行っていない】		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの入院施設のある病院が協力病院であり、全体で月2回の訪問診察に来ていただき、異常発生時などに対応して頂いている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にすぐに連絡できるようになっている 月一回の訪問看護を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、面談にて情報提供し、定期的に面接もしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では、看取りをすることは考えておらず、利用開始時から、終末期のケアについての方針を家族に伝えており、又出来る限りホームでの暮らしが継続できるように、早期対応し寝たきりにならないように努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルは掲示しており、準備等は話し合い確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている、必要な設備を整備している【スプリンクラー・非常通報装置等】		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、入所者の尊厳を重視した対応に心掛けている。利用者に親しみやすい声掛けや介助に努めながら、馴れ愛にならないように適切な対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者に合わせた声掛け、意思表示が困難な方には表情を読み取り、本人が決定出来る場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で決めるのではなく、その時の個々の体調や様子に配慮しながら支援している。本人の意見を取り入れながら、過ごしていただけるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院・理髪店(付き添いは家族に対応していただくようにしている)に行き、好みの髪型にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に、片付けを行っている。献立内容が重複しないよう前日の献立を見ながら、熱ったかいものは熱ったかい内になど食事時間に合わせ直前に提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分摂取量を生活記録に記入している、また夜間は各居室にお茶を用意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは習慣化しており、声掛け・見守り・介助を行っている また月2回歯科医の指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	就寝前・食事前・排泄頻度に応じて、声掛けトイレに誘導するようにしている 夜間も時間や間隔により声掛けしたり、パット交換を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は常に把握しており、散歩や体操・食事内容を工夫し予防している(午前おやつは、ヨーグルトを摂取するようにしている) 排便内容により医師と相談し薬剤で排便コントロールをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日(隔日)や時間帯は制限しているが、お湯の温度や入浴時間は個々に合わせている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しをして、気持ちよく眠っていただいたり、日中はレクリエーション等で体を動かしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は代表者が用意しており、説明書は皆が閲覧できるようにファイルしてある、副作用についても理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯畳・食器拭き・拭き掃除など、個々の出来る範囲内で行っていただくように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年数回バスにより全員で外出している 自車で花見や食事・喫茶店に行くこともある【今年度に於いては新型コロナウイルスの影響で外出は出来ていない】		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金は所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が手紙のやりとりを代行・援助して下さっている、ある程度理解できる方の電話の取次ぎを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・行事ごとに、レイアウトを変えている、また居間には、外出時等の写真を貼ってある		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座る場所が個々で決まっております、場所を間違えると利用者同士声掛けを行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた布団・タンス・生活用品・写真など持ち込んで貰い、安心して生活できるように努めている、日中に於いては利用者は殆どリビングで過ごされている・リビングでの雰囲気にも注意を払っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋は自ら施錠もできる。利用者の身体状況に合わせて、出来る限り自身で行ってもらえるように支援している		